

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



# KEIWA

## COLLEGE REPORT

第 38 号

April 2004

敬和カレッジ・レポート

発行/敬和学園大学広報委員会



第10回卒業式 聖籠町町民会館にて

CLOSE UP

### 北越の学び舎で 学長 新井 明

敬和学園大学新体制のスタートにあたって

地域とともに 教職課程の取り組み

人気授業をサーチする「考古学」/科目等履修生のご案内

第10回卒業式のご報告/Excel講習会がはじまりました

退職された教職員お別れメッセージ/オープン・カレッジのご案内

# 2004





2003年度 英語英米文学科卒業論文発表会が2月6日に行われました。卒業論文を提出した学生のうち、4名の学生が担当教員の推薦をうけて発表を行いました。大学生活4年間の集大成として、イギリス文学、アメリカ文学、英語学、教職課程のそれぞれの分野で研究してきた成果が発表されました。各発表の後には、担当教員や同級生たちからの活発な質疑が行われました。

担当教員の研究室やいくつかの図書館を歩き来し、テーマによっては分野を超えるリサーチも行い、卒業論文を作成していく中で学んだことは、学問の分野だけに留まらず、卒業生たちの新たな人生における大きな糧となるでしょう。

## もくじ

CLOSE UP 北越の学び舎で 学長 新井明 …… 1	卒業にあたってのメッセージ …… 9
敬和学園大学新体制のスタートにあたって …… 4	Excel講習会がはじまりました …… 10
地域とともに 教職課程の取り組み …… 5	学内合同企業説明会のご報告 …… 10
人気授業をサーチする「考古学」 …… 6	退職された教職員のお別れメッセージ …… 11
クラブ紹介 サッカー部 …… 6	2004年度 オープン・カレッジのご案内 …… 12
2004年度 科目等履修生・研究生のご案内 …… 7	学事予告 …… 12
研究生はいま 孫 成 …… 7	寄付者ご芳名 …… 12
第10回 卒業式／卒業謝恩会のご報告 …… 8	キャンパス日誌 …… 13

<表紙写真> 「第10回 卒業式」

学生生活を共にした仲間と一緒に記念撮影 (p.8)

## 北越の学び舎で

学長 新井 明

敬和学園大学に新井明学長をお迎えし、一年が経ちました。新井学長は、本学ホームページ (www.keiwa.ac.jp) に、毎週「学長室だより」を書いておられます。今回は、この「学長室だより」を通して、新井学長自身が敬和学園大学での一年間を振り返りました。



## ●北垣前学長のお別れのことば

いよいよ敬和学園大学に赴任することになり、その直前の二〇〇三年の春先は、何回かこの新発田の地を訪ねている。三月二〇日も、ここにいた。北垣宗治氏が学長として最後になさる卒業式に出席して、心ななかで、北垣さんへの感謝と、慰労の念をささげたかった。

二〇〇三年三月二〇日、北垣宗治氏が学長として最後になさる卒業式に出席した。その日、イラクに戦争が始ま

ったとの報道が流れ、北垣先生は卒業生を送ることばのなかで、そのことに触れ、聖書のことばを引用された。

"Be still, and know that I am God." やさしい英語ですから、憶えておきなさい、と言われて、二度それを引用された。これは、旧約聖書の「詩編」第四六編一一節。式場の聖籠町町民会館からの帰途、車の中で、わたしは北垣先生に、われわれの年代では「汝等しずまりて、我の神たるをしれ」と覚えているところですね、と半ば冗談に申し上げた。

不思議なことに、わたしもその日、この詩編の句とほぼ同じようなことを思い出していた。「エホバ汝等のために戦いたまわん。汝等は静まりて居るべし」(出エジプト記一四の一四)。エジプト脱出にあたり、モーセが人びとを励ましたときのことばである。戦うのは人間にあらず、神その方なのだ。このことばの秘める真理は、なにもイラク戦争にのみ妥当するのではない。敬和学園大学を巣立ってゆく若人た

ち、いや敬和学園大学そのものの歩みにも関わることばではないか、と考えながら、帰宅した。

(二〇〇三・四・一一)

## ●心の田を耕す

敬和学園大学はリベラルアーツの教育を掲げてきた。それは与えられた人生を、社会的な拘束から解き放って、その人個人に定められた尊さが自覚できる場を提供することが大切である。それには「神に仕え、人に仕える」ことの幸いを知り、生きがいを見つけるのが近道である。それ以外に、現代に横行する享樂的なニヒリズムを断ち切るすべはない。

自由高等教育の目標は、より具体的には青年たちの心の田を耕すことである。そのためには、彼らにある特定の価値にむけて一律に引きずっていったはいけない。彼ら一人ひとりの心を自



2003.9.26 チャペル・アッセンブリー・アワー



由にさせてやり、新しい自分を発見させることに教育の目的はある。若者たちの育つのを助ける、助育する、それ以外のことは、教育の仕事ではない。

(二〇〇三・六・一三)

一〇月一日は「教養リフレッシュ・リトリート」と称する一泊の勉強会のために、胎内に向けて、バスで発った。出発前に一同は一本の木の植樹式をおこなった。

わたくしは語った——このキャンパスのどの木でもいい、見てもらいたい。松でもいい。ハナミズキでもいい。はじめは木らしいものなどなかったこのキャンパスに、多くはご寄贈によって、今はこれだけの樹木の景観が出来上がっている。見てもらいたいのは、その一本一本に人の手がいっている、ということである。人の手がいっている、この美しい空間が出来上がっているのである。今ここにあなたがたの手で一本の木が植えられる。来春は若葉をつけ、そして背丈ものびる。あなたがたも一人ひとり、先生がた、友人たちとの、暖かい交わりの「手」のなかで自分を鍛え、大事な人生へと旅立つ準備を、ここで整えてもらいたい。

緑のキャンパスのなかにユリノキが立った。(二〇〇三・一〇・一七)  
若者たちは、木が育つように育っていてももらいたい。

## ●真の裏方

この秋には痛恨の思い出がある。九月四日に国際文化学科の堂後和幸君が網代浜で消えた。遺体の発見は一七日になった。それから二カ月ほど経たある日のこと——

一〇月一二日の日曜日に、新潟マラソンがあった。新聞でその様子を知ってはいた。その二、三日あとのことだ。施設係のひとりが、「先生——」と話しかけてきた。マラソン、やってきました、と言うのだ。堂後くんの写真を胸にして、走ってきましたよ、と。この名の学生は今年九月一日に網代浜で命を絶った青年だ。「生きていれば、いっしょに走るようになっていたんです。」(二〇〇三・一一・二二)

ふだんキャンパス内の芝生や樹木の世話をしたり、校内の壊れた箇所を直したり、清掃をしたり、車の運転をしたりしてくれる職員たちがいる。教育の場にあつては、いわば裏方を引き受けてくれる人びとである。裏方は、しかし、学生たちの目に、い



2003.10.10 2003年度入学記念樹植樹式

ちばんつきやすい所で働いている人びとである。その点が、他の職場の裏方とは違うところであり、案外青年たちはこの人びとの姿から、教室で学ぶ以外の多くのことを学ぶことがあるのではないか。

## ●「恐れるな」

今春、共生社会学科が創設される記念として、九月二日に前日本銀行総裁・速水優氏にお出でいただき、「明日の日本を考える」という講演をしていただいた。新発田市市民文化会館に、予想外の三〇〇名近くが集まり、水をうった静けさのなかで時を過ごした。

ご長兄がキリスト者らしく召され逝く姿を見て感ずるところがあり、阿佐ヶ谷教会の大村勇牧師(やがて敬和学園の第二代理事長になられる)より、一九四五年暮れに洗礼を受けたこと。日本銀行、日商岩井と歩き、経済同友会代表幹事を引き受けるときには、「奉仕と献身」の意を固めたこと。一九八八年に日銀の総裁に決まる時には、「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」という御声を聞きつつ、身を処してきたことなどを述べられた。そのあとで、速水氏は、いま日本は世界の市場統合にむけて、グローバルな目をもって構造改革を押し進めて行かなければならない、と説かれた。「眠れる十年」のあいだに弱体化した企業は、新しい強い起業家精神をもって道を切り開いてゆかなければならない。(政



府によるやたらな金のばらまきは、後に禍根を残す。これはマックス・ウェーバー流の「資本主義の精神」の現代化の提唱をなさったことになる。

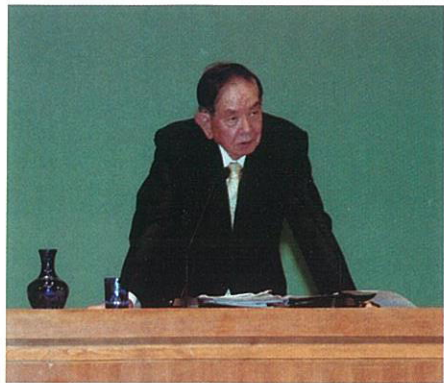
「恐れるな」という御声を内に秘めつつ発せられる、預言者的な勧告の声を聞く思いがした。

(二〇〇三・一二・一二)

### ●全人格的医療

師走の一四日に聖路加国際病院理事長の日野原重明先生のお話をきいた。新潟市民病院の開院三〇周年記念講演会にお招きしたのだという。「生きかた上手」という演題であった。市民病院名誉院長・笹川力先生からわたくしは招待券がいただけであった。(六百の席に四千人以上の申し込みがあったという。)

日野原先生は、医療としては「患者とともにある全人格的医療」を勧めら



2003.9.13 共生社会学科新設記念講演会  
「明日の日本を考える」(速水 優氏)

れ、一般には「さわやかな生き方」を推奨された。さわやかな生き方の中心には、知恵、節制、正義への愛、勇気がなくてはならない、と説かれた。

講演後、先生は別室でわたくしに、オスラー博士講演集『平静の心』(医学書院)をくださって、「新井明先生へ/日野原重明/二〇〇三・一二・一四」とご署名くださった。その後、六百ページをこえるこの訳書を、わたくしは山陰への旅の往復で丁寧に読んだ。医師として、みずからに平安、自制、他者への愛を求めるオスラー博士の姿勢が、日野原先生の人生のしるべとなっていたことを学んだ。わたくしの二〇〇三年はこの日野原先生との出会い、オスラー博士との著述をとおしての出会いで閉じることができた。いよいよ新しい年を迎えることになる。

(二〇〇四・一・一六)

医療の現場をよく知り、とくに末期患者のケアのあり方を模索しつつ、人生の大半をささげてこられたこの道の大家の声を、あたたかかった。基本は「患者とともにある全人格的医療」だと言われる。「患者」という語の代わりに「学生」という語を入れてみる。それはこの敬和学園大学の教育指針ではないか。

太平洋戦争の終わった直後、信州・野辺山に入植したキリスト者の一団があった。野辺山を開墾するという場合、入植者たちは稲作可能な田の開墾を目的とした。しかし、この高原は寒冷地なるがゆえに、それが不可能とわかり、稲作を断念するまでに、

まる二夏の経過が必要であった。野辺山の開拓は困難をきわめた。みな乞食同然の生活に入った。その何所帯かに、物品その他の援助を提供しつつけた主なる方が、日野原ご夫妻であった。いまは高原野菜の産地として名高い野辺山を通るたびに、わたくしはその隠れた愛の行為を思い出す。日野原先生のお口からは漏れることのない話である。

学年末にはいった。新発田へ着てから、一年ちかくになる。卒業式までは、幾多の仕事がひかえている。式辞は、今度はわたくしが述べなくてはならない。北垣前学長にはその式場で「名誉教授」「名誉文化博士」の称号を受けていただくことになる。ことによると、学生たちによるハレルヤ・コーラスが歌われるかもしれない。

### 新井明学長 プロフィール

一九三二年生まれ。茨城県出身。

内村鑑三スカラーとして、米国アーモスト大学を卒業後、ミシガン大学院修了。帰国後名古屋大学、東京教育大学、大妻女子大学、日本女子大学で教育・研究に携わる。

本学では、多忙な学長業務に加え、学生と直接対話の場を持ちたいという思いから、「文化・文学比較論」の授業も担当している。

文学博士。日本女子大学名誉教授



# 新体制 スタート

## 共生社会学科新設 三学科による新体制でスタート！

おかげさまで敬和学園大学は、今春で開学一四年目を迎えました。既にご案内しておりますように、本学に共生社会学科が新設されました。定員四〇人という小さな学科ですが、希望を持った若者たちが入学してきています。

新学科は、少子高齢社会に向かう社会の要請に応えるため、キリスト教主義の教育理念を実践する学科であり、敬和学園高校の「労作」の授業から継承してきている本学のボランティア教育を発展させたものです。自然と人間が共に生き、障害の有無・男女の差・文化の違いなどを越えて人々が対等な関係の中で共に生きるために、「共生」と「ケア」をコンセプトにして構成されています。この学科では、深い人間理解や広い視野を持ち、ヒューマン・サービスに関わりながら「競争社会」ではなく、「共生社会」を創り出していく人物の育成を目指しています。

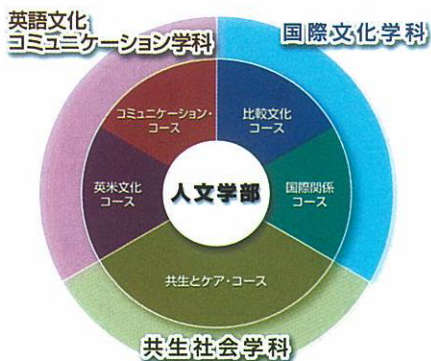
共生社会学科の第一の特徴は、資格取得を重視する従来の社会福祉系の学科と異なり、リベラルアーツに基づいて福祉の現場で求められている人間観・価値観の育成に力を入れた教育を行うことです。同時に希望する学生に対しては、社会福祉士国家試験受験資格課程も開講されます。また、社会福祉専任資格の取得も可能です。

第二に、「共生社会」という新しい視点から、「社会福祉」と「ボランティア」を統合し、「社会福祉」の現場で求められて

いるボランティア・マインドを育成すると同時に、「ボランティア」の現場で求められている福祉の知識と技術を身に付けます。

第三に、広い視野から社会福祉やボランティアについて考え、ジェンダー・エスニシティ・マイノリティなど社会福祉の新しい課題にも取り組めます。NGO/NPOの科目やアジアにフィールドを持つ科目も開講されます。

共生社会学科の新設に伴い、英語英米文学科は定員を従来の一〇〇人から八〇人にし、英語文化コミュニケーション学科と名称を変更しました。今まで以上に実践的な英語を身につけるために、「英語文化コース」と「コミュニケーション・コース」の二コースで成り立つカリキュラムに改編しました。従来どおり中学校・高等学校英語科の教職課程も設置しています。



国際文化学科も定員を一〇〇人から八〇人に変更しています。日本・アジア・ヨーロッパの地域文化と文化交流に力点を置いた「比較文化コース」と法・政治・経済とコミュニケーションに力点を置いた「国際関係コース」にカリキュラムを刷新しました。現在、国際文化学科では、高等学校公民科の免許が取得できる教職課程の設置に向け準備を進めています。

これらの三学科のカリキュラムは、専門科目を基幹科目、展望科目、展開科目、演習科目というカテゴリーに分けて、より学習しやすくしました。また、それぞれの学科の壁は他大学に比べて低く、他のコースにも開かれたコース制度になっており、自由科目（三〇単位）の枠を用いて、他学科の科目を自由に履修することができます。学生自身の興味にあわせ、専門を深く狭く学ぶこともできれば、浅く広く学ぶこともできるようにも設定されています。

昨年度は「チャペル・アッセンブリー・アワー1, 2」(各一単位)を単位化し好評でしたが、今年度はさらに、三年生の就職ガイダンスの内容をより充実させて、「キャリア開発1, 2」(各一単位)として単位化します。また、主に社会人を対象にしたKOP科目はエクステンション科目と名称を改め、従来の内容に加えて、小学生に対する英語の指導法を学ぶ「初等教育英語」を新潟駅前の教室で開講するほか、コリア語とイタリア語の講座を新たに開講します。こうして、ミッション・ステートメントに盛り込まれた教育方針をさらに具体化させていきます。

(教務部長)



# 教 職

地域とともに学生を育てる

## 教職課程の取り組み

敬和学園大学に教職課程（英語）が設置されて十一年目となります。新潟県内の私立大学では、唯一の英語の教職課程であり、所定の科目の単位を全て修得した学生は、卒業時に中学校教諭一種免許状（英語）と高等学校教諭一種免許状（英語）を取得することができます。

本学の教職課程は、四年間を通じて実際の教育現場を体験できる機会を設け、教職への理解と教育者としての意欲を高めるユニークなスタイルを取り入れています。

一、二年生を中心にした学生が、子供たちに遊び感覚で英語になじんで欲しいと、近隣の小学校での英語教育のボランティア活動を行なっています。さらに、二年生から本格的にはじまる教職課程では、その履修者を対象にしたインターシッピング制度を設け、近隣の中学校や高等学校でティーチング・アシスタントとして授業の支援活動



2003年度 敬和祭「教職のへや」

を行い、これを単位認定しています。

教職課程二年生までの所定の単位をすべて修得した学生は、本格的な教育実習に入ります。まず、「教育実習1」として、三年生の後期に聖籠町立聖籠中学校で一週間の教育実習を行ない、それに引き続き約半年間（週一回）、ティーチング・アシスタントとして授業に参加します。聖籠中学校の全面的な協力により、このような教育実習のスタイルを取り入れることができました。そして四年生では、「教育実習2」と

して、母校の中学校または高等学校での二週間の教育実習を行ないます。教壇に立つて授業を行なう教科指導だけでなく、学級の運営や部活、学校行事などにも携わります。

本学の教職課程ではこのような実践教育を中心に据え、教える技術を学び、専門教科の知識を深め、教員として必要な知識を身につけていきます。この少人数の徹底した実践教育の成果が実を結んで、毎年新しい教員が巣立ち、中学校や高等学校の教育の現場で活躍しています。

学生の教育現場での活動に加え、本学の教員もまた、中学校、高等学校の英語教員の方々と英語教育について考えるリフレックス・セミナーを毎年開催しています。本学では、このような地域とのかかわりから生まれる、技術の習得だけに留まらない、リベラルアーツに基づいた幅広い素養を持った教育者の育成を目指しています。

（教職課程委員会）



英語英米文学科卒業

石井 彩

## 目標に向かって

私は、入学する以前から敬和学園大学で教職課程を履修しようと考えていました。といっても将来教師になるという選択肢は私の中には全くなく、大学生活を有意義に送るために、四年間通してやり遂げ、卒業してからもなにかの形に残る「目標」が必要だと考えたからです。教職課程を履修し、教員免許を取得することはまさに恰好の目標でした。

教職に必要な授業をこなすのは思った以上に大変で、何度も挫折しそうになりましたが、その分やりがいもありました。授業で学んだことはとても興味深く、家庭教師のアルバイトで子供たちと接することが楽しかったということもあり、次第に教師になるのもいいかなという思いが強くなっていきました。そして、教育実習や、去年からはじめた聖籠中学校でのティーチング・アシスタントなど実際の教育現場での経験を通して、それまで漠然としていた教師への夢が、いつそう強く具体的なものになりました。

新潟県の教員採用検査に合格することができた今、これまでやってきたことへの達成感と満足感に満たされて本当に幸せです。そして同時に、一人前の教師になるという新たな目標に向けて不安と期待でいっぱいです。大学で学んだことをしっかりと胸に刻んで、新たな目標に挑んでいきます。



# 授 業

人気授業をサーチする

## 「考古学」

### 考古学への誘い

国際文化学科二年

古山 貴子



「考古学」は、富山市埋蔵文化センターの所長である藤田富士夫先生にご担当いただいております。藤田先生は本学の人文社会科学研究所の研究員としても活躍され、昨年十二月には本研究所主催で「環日本海の玉文化の始原と展開」と題する国際研究会を開催され、大きな話題となりました。

昨年度の授業は、前期は縄文時代前期に流行した装身具「玦状耳飾り」を通して見えてくる縄文社会像や大陸文化との関係について、後期は新潟県糸魚川市を流れる姫川で産出する翡翠に見る縄文社会像についての講義が、それぞれ現地での学習を交えて行われました。

土曜日開講の科目ということもあり、社会人の履修者や単位互換を利用した他大学の学生もいて、本学学生にはよい刺激となっています。



奥三面歴史館にて（右下端は藤田先生）

私がこの「考古学」の授業を受講しようと思ったのは、純粹に興味からでした。どんなことを学ぶのか、これまでの生活からは全く想像がつかなかったからです。

授業では、普段は聞かないような専門用語が多く、はじめは難しそうに思えました。しかし、直に考古学資料に触れる機会も多く、ビデオなどを見たりして、授業の理解を深めることができました。また、現地学習もあり（中条町の乙宝寺や黒川村郷土文化伝習館、奥三面歴史館など）、考古学の実験を体験することで、自分ひとりでは学べない幅広い見識を持つことができました。

担当の藤田先生は、難しい考古学資料についても、専門的な知識を身近な例を挙げながら詳しくわかりやすく教えてくださいました。また、考古学の授業は土曜日であったこともあり、社会人の方も多く受講されていましたので、堅苦しい授業という感覚もなく「学ぶ」ことができました。

この授業は考古学に興味のある方にとっては本当に魅力的な授業だと思います。また、そうでない人も、きつとこの講義をきっかけとして、考古学の世界に興味を抱くことができると思います。

クラブ紹介 サッカー部

We are a football tribe

英語英米文学科卒業 津野 雅之

「次だ、切り替えろ」「マーク」。練習中は、活気のある声がグラウンドで響きます。僕たちサッカー部は高校までサッカーをやってきた。「また熱いサッカーをしたい」という人もいれば、今までサッカーをした経験がない、いわゆる初心者もいます。しかし、「勝つための『楽しい』サッカー」をモットーに練習に励んでいるので、経験者と初心者との隔たりもなく、学年が違っても感じたことを口にし、互いの意見をぶつけ合います。その結果、今季は秋季・春季県内大学リーグで四位になりました。

僕たちサッカー部の売りは、全員が互いに言いたいことを言いあい、そして互いを思いやれる連帯感にあると思います。まさに、「絆」と呼べるものがそこにはあると思います。そうです、「We are a football tribe.」なのです！



俺たち「サッカー族」  
（下段右から4人目が津野さん）



# 生涯学習

## <2004年度イブニング・コース (19:00~20:30)>

科目名	担当教員	単位数	開講期	開講日
ブリティッシュ・カルチャー	Amy Jenkins	4	通年	月曜
ニュース・イシューズ	Allan Blondé	4	通年	火曜
文学1・文学2	若月忠信	2・2	前期・後期	
日本語教育入門1・日本語教育入門2	有田佳代子	2・2	前期・後期	
新約聖書緒論1・新約聖書緒論2	山田耕太	2・2	前期・後期	
初等英語教育:理論と実践	外山節子	2	前期	
コリア語入門1・コリア語入門2	金世朗	2・2	前期・後期	水曜
食とコミュニケーション	Mark Frank	4	通年	
イタリア語入門1・イタリア語入門2	Mario Perversi	2・2	前期・後期	金曜

※「初等英語教育」は、新潟駅前の教室での開講となります。

科目等履修生制度とは、敬和学園大学の授業を、社会人や家庭の主婦の方などにも、幅広く学んでいただけるように設けた制度です。自分の興味のある、学びたい科目を選択し、受講することができます。

学生向けに開講しているほとんどの科目を受講することができます。仕事をもちの方も受講しやすいように、午後七時から開講する科目や新潟駅前の教室での科目(左表)なども用意しています。みなさまふるってご参加ください。

## 二〇〇四年度 科目等履修生、研究生のご案内

また、さらに本学教員の下で希望するテーマについての研究を深くすすめる研究生制度もご用意しています。大学院進学へのステップとして利用も歓迎しております。

いずれもお問合せ、お申込みは、敬和学園大学教務課教務係までお願いいたします。

画〇二五四―二六一―二五二四  
e-mail kyounu@keiwa-c.ac.jp

### ●科目等履修生の募集

対象 高等学校以上を卒業した方、又はこれと同等以上の学力があると認められる方

授業料 一単位につき、一万円

出願期間 (前期) 四月十九日～二十六日  
(後期) 九月二十五日～十月二日

※受講できる科目等につきましては、お問い合わせてください。

### ●研究生の募集

対象 大学を卒業した方、又はこれと同等以上の学力があると認められる方

検定料 一万円

入学金 六万円 (本学卒業生は三万円)

研修料 半期六万円

出願期間 (前期) 三月二十六日まで  
(後期) 九月十日日まで

## 中日交流の重要性を体験



立命館大学大学院  
国際関係研究科修士課程二年  
孫 成

私は二〇〇二年七月に中国の対外経済貿易大学を卒業し、九月に初めて日本に来て、敬和学園大学の研究生として房先生の研究室に入りました。

敬和学園大学では、とても楽しく勉強し、生活しました。そして、私は中日交流の重要性について真剣に考える場を持つことができました。二十一世紀の中国と日本は、東アジアで最も重要な国です。しかし、歴史問題、経済問題、東アジアでの地位などの問題があるため、中日間には様々な誤解があります。敬和学園大学では、日本人の学生とよくこの問題を話し合いました。これからの東アジアの安定と繁栄のために、私たちの責任は重いと思っています。

房先生の指導のお蔭で、二〇〇三年一月に京都の立命館大学大学院修士課程の試験に合格することができ、現在は、中国・日本の経済関係、特に中日間の地域経済協力を研究しています。これからの中日友好のために一生懸命がんばってまいります。

敬和学園大学は私の日本での母校であり、私の日本での第一歩です。房先生をはじめとした諸先生方や事務の方からいろいろとお世話になり、本当に感謝しています。私は敬和学園大学での楽しい思い出や自身の奮闘、成長をいつまでも忘れません。



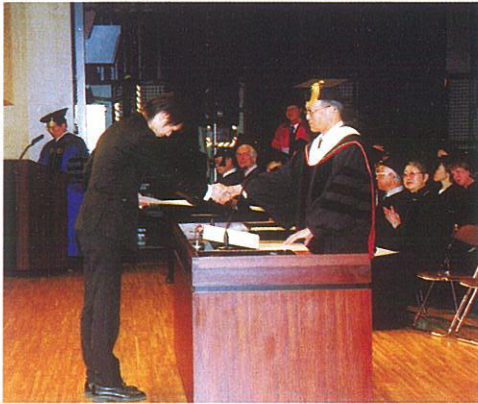
# 卒業

## 第十回卒業式

敬和学園大学第十回卒業式が、去る三月十九日（金）聖籠町民会館で行われ、一三七名が新たな希望を胸に社会へ巣立つて行きました。

卒業式では、学長から卒業生一人ひとりに「卒業証書・学位記」が手渡されました。今回は新井学長の就任後始めての卒業式であり、学生と交わすその手に敬和学園大学の新しい風が感じられました。新井学長の祝辞では、卒業生のこれからの人生に向けての激励の後、卒業生諸君に「真に自由たる人間として、生きつづけていただきたい。」という思いを込めて、大学聖籠館に掲げられている「真理はあなたたちを自由にする」という聖書のことばを贈られました。

本学学生有志ほかによるハレルヤ・コー



卒業生1人ひとりとしっかり握手

ラスのあと、来賓のみなさまからご祝辞をいただき、また多数のご祝電も披露され、卒業生をさらに励ましてくれました。

卒業生代表として、英語英米文学科の大久保秀樹さんが「これから困難に直面し、挫折するようなときも、敬和学園大学で学び、経験し、得てきたものが、私たちを正しい方向に導いてくれると確信してやみません。」と力強く答辞を述べました。

また、今年度は、成績優秀者として大久保秀樹さんと一筋めぐみさん、ボランテイア表彰として関川寛人さんが表彰され、それぞれ記念品が贈られました。最後に、卒業生を代表して、加藤勝範さん（卒業準備委員長）から木製ベンチが卒業記念品として大学に贈呈されました。そして、来賓として出席の北垣前学長に名誉教授の贈呈と、名誉学位記の授与がなされました。

卒業式終了後、新潟市内のホテルに会場を移して「卒業謝恩会2003」が行われました。これは、卒業生から大学教職員並びに保護者の方々への感謝の気持ちを表すもので、卒業準備委員会が後援会のご協力を得て、例年企画・実施しているものです。先輩の門出を祝おうと軽音楽部の学生が軽快な音楽を演奏する中、恩師や共に学んだ友人と一緒に、楽しかった大学生活を思い起こし、時間を忘れるほど会話が弾む会となりました。

この謝恩会を含め、卒業まで様々な行事やクラブ活動などを支えてくださった本学後援会には卒業生一同に成りかわりました。心より感謝申し上げます。（学生委員会）

## 卒業準備委員会のメンバーとして

英語英米文学科卒業

加藤 勝範



卒業準備委員会は昨年十月から五人で活動を始めました。何をどう考えていけばいいのか、計画通り進むのだろうかと心配でしたが、このメンバーのチームワークがあれば大丈夫、迷う時があってもお互いに支えあえるはずだという気持ちがありました。

実際の活動は、卒業アルバム作成と謝恩会の企画・実施が中心でした。

アルバムは個人写真とゼミ写真、学生生活写真で構成することになりました。個人写真の撮影が期限までに終わるか不安はありましたが、無事終了することができました。次に学生生活写真にどの写真を何枚載せるかを決めたのですが、ゼミや行事、クラブの数を配慮して、見やすいレイアウトで作ることはとても時間のかかる作業でした。

謝恩会では、事前に出席していただく来賓や保護者の方々、先生方と学生の人数を把握し準備をすすめ、当日の運営と司会も務めました。今までにない緊張感と使命感がありました。今までにない緊張感と使命感が同窓会のご支援、ご協力により盛大のうちに無事に幕を閉じることができました。

大学生活の四年目に、卒業準備委員会のメンバーに加わり、すべてを無事に終えることができたことを大変誇りに思っています。このような貴重な経験ができたことは、これからも心に残っていくと思います。



## 敬和と英語と私



英語英米文学科卒業  
大久保 秀樹

高校時代に英語に興味を持ち、「英語漬け」の日々を夢見て敬和に入学したのが四年前でした。今、私が四年間で履修してきた科目を振り返ってみると、やはり英語関係の科目が多く、あらためてこの四年間の充実ぶりを思い出します。課題に追われ、つらい時もありましたが、そんな時は入学した時の気持ちを思い出して、がんばってきました。

工業高校出身の私にとっては当初、英語は決して得意といえるものではありませんでした。それどころか、まわりに対して、ちよつとした劣等感すら持っていました。「工業出身だから英語はできないだろう」と思われるのも嫌なことでした。しかし、それらの背景が私にとっては非常にプラスとなりました。生来の負けず嫌いな性格もあり、いろいろな人をライバル視することで、少しずつ力をつけていくことができたと思っています。

英語学との出会いも新鮮でした。英語を分析の対象としてみていくということは、非常に興味深いものであり、上野先生、五十嵐先生には大変お世話になりました。

二〇〇四年度以降、英語英米文学科の名前がなくなることは残念ですが、英語を学びたい全ての人にとって、今後も敬和学園大学には理想の環境であって欲しいと思います。

## 敬和学園大学で学んだこと



国際文化学科卒業  
一箭 めぐみ

大学での講義は、高校までの授業と全く違うものでした。ただ授業に出席してノートを書くだけという受身ではなく、講義中やレポート、試験にどんどん自分の考えを主張し、自分なりに展開して結論までつなげ、自分の論議を積極的に表現するということが大学で求められました。入学したばかりのころは、自分の考えをどのように主張してよいのか分からず、苦労しました。しかし時間が経つにつれて、人の考えを聞き、自分の考えと比較して展開していくことの楽しさを発見しました。レポートも大学に入って、初めて課題として出された時、どのような形式にして書けばよいかわからず、一つのレポート課題を完成させるのにとても時間がかかりました。その後もレポートの作成は大変でしたが、資料を集めて、それをまとめていく中で、たくさん知識を得ることができました。

私の大学生活は、とても充実していて、本当にあつという間に四年が過ぎました。振り返ってみると、あの緊張していた入学式が、もう四年も前であることに驚きます。こんなにも充実した四年間を送ることができたのは、共に楽しく過ごしてきた友達をはじめ、教職員の方たちのおかげです。四年間で学んだことを無駄にすることなく、卒業後にも役立たせ、私自身をもっと成長させていきたいと思っています。

## 「ボランティア」を通して学んだこと



英語英米文学科卒業  
関川 寛人

私はこの敬和学園大学に入学してからの四年間、ボランティア活動を続けてきました。サークルも「ボランティア・サークル」に所属し、新発田市の知的障害者更生施設「緑風園」や新潟市のグループホーム「からし種の家」などに積極的に足を運び、施設の活動への協力を心掛けていました。

「からし種の家」では、入所者の方をお散歩に連れて行ったり、家事（特にお掃除）のお手伝いをしました。こういった活動に参加したのは、誰かに頼まれた訳ではなく、自分が参加することで少しでも作業が早く終わり、みなさんが助かるだろうと思ったからです。物事というのは何でもそうなのですが、ボランティアにはこのような「積極性」が特に必要不可欠なものであると思います。自ら何かに参加し、貢献することは大変勉強になり、そして近い将来に必ず活かされます。このような小さな積み重ねが人生において、実は一番大切なのではないのでしょうか。

私は、「人の役に立ちたい」という目的を持って活動してきました。そして、目的を持つことで、人生というのは随分と活き活きとしたものになるということがわかりました。みなさんも、何か一つでも構わないので、目的となるものを持つことをお勧めします。一度しかない自分の人生を満足のできる素晴らしいものにしてください。



# 就職

## 資格取得支援講座 Excel講習会がはじまりました

去る二月十六日から二十七日にかけて、「Microsoft Office Specialist (Excel) 講習会」を本学CPU教室で開講しました。パソコン上で表計算やグラフ作成を行う高度な技能の取得は、就職に有利な資格のひとつとして評価されています。

講習会は一日三コマ(各九〇分)で九日間、講師一名とアシスタント一名を配置し、個別指導を重視して行われました。三月七日の本試験では、六名が合格しました(合格率五〇%)。

就職支援の一環としての当講習会は、通常の授業以上に実践的な内容を扱います。World講習会同様、今後とも夏期・春期休暇期間を中心として定期的に開講していく予定です。学生諸君には何度でもチャレンジし、検定合格を果たすことを願っています。(就職委員長)



わからないところは直接指導

## 挑戦することの大切さ



英語英米文学科三年  
山田 佳苗

私が「Excel講習会」を受けた一番の理由は「今の時代、パソコンくらい使いこなせなくては・・・」という焦りからでした。というのも、それまで私は全くと言っていいほど、パソコンに無関心だったからです。しかし、講習を受けるにつれて、パソコンへの意識は変わり、思い通りに使いこなし、身につけていくことに大きな達成感を感じるようになりました。

これから講習会に参加しようと考えている人、または全く関心がない人にぜひ伝えたいことがあります。それは「やってみよう」という気持ちを持つことです。自分に必要かどうかではなく、新しい自分に挑戦する場として、ぜひ講習会に参加してほしいと思います。これが結果を出す一番の近道です。今後も私は挑戦する気持ちを持ち続け、さらに上級レベルを目指してがんばっていきます。

最後に、毎日わかりやすい指導をしてくださった講師の方々、講習会を開いてくださった就職指導室の方々、本当にありがとうございました。



## 学内合同企業説明会のご報告

三年生の就職戦線は、二月初めに開催された学外の合同企業説明会を皮切りに始まりました。本学では、まだ就職活動に慣れない三年生のために、二月二〇日に「学内合同企業説明会」を本学体育館で開催しました。厳しい雇用状況の中、五十一社(官公庁を含む)の採用担当者の方々からのご出席を得て、本学学生に対し今後の採用スケジュール等のご説明をいただきました。

今回が初めての企業説明会参加のため、慣れないスーツ姿で緊張した面持ちの学生も少なくありませんでした。しかし、ブラスを回ることに、彼らから少しずつ就職に向けた積極的な姿勢をうかがうことができました。今回の経験をきっかけとして、大きく飛躍して欲しいと思います。

最後に、お忙しい中、本学学生のためにお越しいただいた採用担当者の方々にご改めとお礼を申し上げます。(就職委員長)



企業の方の説明を真剣に聴く学生たち



# 退職された 教職員

ひとつの夢が終わり、別の夢がはじまる

前契約講師 コンラッド・マツモト

日本に着いたその日はアメリカの勤労感謝の日でした。むこうでは家族や親戚が集まって七面鳥を食べているころかなと、少しホームシックになっていた時、ふとパソコンを開くと、ジョイ先生からのメールが入っていました。「敬和学園大学に採用です、おめでとう。」うれしくて飛び上がりました。

初めての愛車、赤いプレリユードを買った十八歳のあの日と同じように最高に幸せな瞬間でした。それまで十年ほど英語教師をやってきて、いつかは大学で教えたいと思っていました。その夢だった仕事に就けたのです。それからの四年間は本当に夢のようでした。

四年前の春のある日、教室に入って、そ



学生と一緒に（下段左がマツモト先生）

こで見た、緊張しているけれどワクワクもしている学生みなさんの顔、顔、顔…。私も同じ気持ちでした。この三月にその時の学生諸君が卒業です。みなさんが懸命に英語を学び、話そうとする姿は素晴らしい、おかげで教えることは楽しくて満足感がありました。四年間を振り返ると、微笑がこぼれます。飲み会、バスケットの試合（二十歳の頃に戻ったようでした）、そして去年の誕生日に学生たちがくれたバースデーカード。カリフォルニアの私の実家に学生がホームステイしたことも楽しい思い出です。でも、新潟の曇りや雨、雪には閉口でした。次の任地の仙台の晴天を心待ちにしています。

最後に、同僚の方々に感謝申し上げます。いろいろ学ばせていただき、助けてもいただきました。みなさんのおかげで、敬和での四年間は完全なものとなりました。先生方、職員の方々、そして学生みなさん心から感謝申し上げます。会えなくなると寂しくなりますが、また戻ってきます。だから Goodbye! じゃなくて、See you again!

（翻訳・広報委員会）

退職にあたり

教務課長

相澤 俊一



新入生の胎内オリエンテーションのお昼に、松崎教授からカルチャーショックを感じませんかと声をかけられ、「国立、私立と言っても同じ大学ですから感じません。」と少々気取って答えてから早や四年の歳月が過ぎようとしています。

振り返ってみれば大きな違いが沢山あることに気づきます。アットホームな雰囲気の中で学生に親切な先生方の姿が浮かびます。この大学の素晴らしさは、卒業式の日「俺は、私はこの大学に入ってよかった」と笑顔で言える学生の姿で証明されています。

私も単位は大幅に不足ですが繰り上げ卒業です。脳裏をよぎる思い出が沢山あり、お別れのレポートとしてまとまりません。限られた紙面に要約して更に圧縮したら「感謝」の二字となりました。これを口語体に直すと「ありがとうございました」となります。

艾田晴朗 in 「春」...?  
by. a





# オープン カレッジ

〈2004年度 オープン・カレッジ〉

敬和学園大学 「絵本の世界 絵画の世界」		
6月19日(土)、20日(日)	言葉の力と美しさにふれる2	松居 直 児童文学者
12月4日(土)、5日(日)	こどもとカップルの美術史1	森 洋子 明治大学教授
1月8日(土)、9日(日)	こどもとカップルの美術史2	森 洋子 明治大学教授
※お問合せ 敬和学園大学総務課 (Tel 0254-26-2394、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp)		
新発田市 「知ってるようで知らない世界のお話」 (新発田市生涯学習センター)		
5月29日(土)	『ガリバー旅行記』	北垣 宗治 前学長
6月1日(火)	『アルプスの少女ハイジ』	桑原 ヒサ子 教授
6月8日(火)	『赤ずきんちゃん』	金山 愛子 助教授
6月15日(火)	『桃太郎、瓜子姫、一寸法師』	若月 忠信 教授
6月22日(火)	『アラビアンナイト』	松本 ますみ 助教授
6月29日(火)	『不思議の国のアリス』	杉村 使乃 講師
※お問合せ 敬和学園大学総務課 (Tel 0254-26-2394、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp)		
聖籠町 「教養講座」 (聖籠町町民会館)		
9月28日(火)	日本語は面白い	James B.Brown 教授
10月5日(火)	環境ホルモン入門	石川 喜一 教授
10月19日(火)	食と健康	久島 公夫 教授
10月26日(火)	料理で学ぶ異文化	C.Joy Williams 助教授
※お問合せ 聖籠町公民館 (Tel 0254-27-2121)		
豊栄市 「食とコミュニケーション」 (豊栄市中央公民館)		
6月10日(木)	スローフード運動と私たち	Mark R.Frank 講師
6月17日(木)	食と環境ホルモン	石川 喜一 教授
6月24日(木)	首脳外交から見た世界の食文化	富川 尚 講師
7月1日(木)	食と健康	久島 公夫 教授
7月8日(木)	アメリカの食とグローバルズム	前嶋 和弘 講師
7月15日(木)	コミュニケーションと食育	中村 義実 助教授
※お問合せ 豊栄市中央公民館 (Tel 025-387-2014)		
三条市 「民族、宗教、国家を超えて」 (三条市中央公民館)		
10月6日(水)	日系アメリカ移民の歴史	松崎 洋子 教授
10月13日(水)	E Uを創った人々	富川 尚 講師
10月20日(水)	日本とアジア	松本 ますみ 助教授
10月27日(水)	仏教とキリスト教の対話	延原 時行 教授
※お問合せ 三条市中央公民館 (Tel 0256-32-4811)		

敬和学園大学では、日ごろからお世話になってる地元の新発田市、聖籠町をはじめ、豊栄市、三条市にてオープン・カレッジ(公開講座)を開催しております。今年度の日程やテーマ、お問合せ先は次のとおりです。いずれも本学の教育・研究の側面や教員の横顔が垣間見られるようなテーマに

なっております。例年、参加者のみなさまからは、活発なご意見、ご質問をいただき、大学や地域のみなさま同士の和気あいあいとした交流の場となっております。みなさまふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。(広報委員会)

## 地域とともに オープン・カレッジのご案内

## 学事予告

- ◆四月◆
  - 一日 学年始め
  - 五日 入学式、後援会総会
  - 六日 学生ガイダンス(八日まで)
  - 八日 新人生歓迎公開学術講演会「日本のフランクリン」
  - 九日 履修指導日
  - 十日 前期講義開始
  - 十一日 履修登録期間(十六日まで)
  - 十二日 一年生オリエンテーション(二十三日まで)
  - 三〇日 休業(創立記念日の振替)
  - ◆六月◆
    - 五日 スポーツ大会
    - 二十一日 創立記念日


## 寄付者ご芳名

- 一般
  - 河上 正義 古俣 重作
  - 山内 友子 鷹澤 昭一
  - 新井 明 3
  - 日本基督教団東中通教会
  - 日本基督教団佐倉教会
  - オレンジ会
  - 敬和学園大学後援会
  - 新田 和子 今井 正仁
  - 有澤 未欧
  - 佐藤 浩雄
  - 田中 正範
  - 柳瀬 大




# キャンパス日誌

## 1月

- 5日 仕事始め
- 6日 講義再開
- 7日 一般入学試験（A日程）、一般入学試験（B日程）、センター利用入学試験（第1次）出願
- 9日 チャペル・アッセンブリー・アワー㊦  
説教 延原時行 宗教部長  
「21世紀の宇宙論的キリスト教～三つのうめき～」  
講演 柴沼晶子 教授（写真）  
「英国留学で得たもの  
～安井てつと大江スミの場合を比較して～」  

- 10日 秘書技能検定（準1級）2次対策講座
- 13日 卒業論文提出
- 14日 教授会
- 16日 チャペル・アッセンブリー・アワー㊦  
説教 新井明 学長 「コヴェントリの思い出」
- 17日 大学入学試験センター試験（～18日）
- 20日 補講日（～23日）
- 25日 一般入学試験（A日程）、外国人留学生入学試験
- 26日 後期講義終了
- 27日 後期末試験（～2月9日）
- 28日 教授会
- 29日 一般入学試験（A日程）、外国人留学生入学試験合格発表理事会
- 31日 一般入学試験（B日程）

## 2月

- 2日 編入学試験（第2次）、社会人入学試験（第2次）出願（～16日）
- 4日 教授会
- 5日 一般入学試験（B日程）、センター利用入学試験（第1次）合格発表
- 6日 ノースウエスタン大学留学担当者（2名）来学（写真）  
英語英米文学科卒業論文発表会
- 10日 春期休暇（～3月31日）  
後期集中講義期間（～14日）
- 16日 後期末追試験（～18日）  
一般入学試験（C日程）、  
センター利用入学試験（第2次）出願（～3月2日）  
Microsoft Office Specialist (Excel) 検定  
試験準備講習会（～27日）  


- 18日 一般入学試験（A日程）、外国人留学生入学試験  
入学手續締切
- 20日 学内合同企業説明会（参加社51社）（写真）
- 22日 簿記検定 2級試験
- 23日 一般入学試験（B日程）、  
センター利用入学試験  
（第1次）入学手續締切  
社会人入学試験（第2次）
- 25日 教授会
- 26日 社会人入学試験（第2次）合格発表



## 3月

- 1日 図書館閉館 蔵書点検（～22日）
- 2日 再試験  
外国人留学生入学試験（第2次）出願（～10日）
- 3日 センター利用入学試験（第3次）出願（～22日）
- 9日 一般入学試験（C日程）
- 10日 教授会
- 11日 一般入学試験（C日程）、  
センター利用入学試験（第2次）合格発表  
社会人入学試験（第2次）入学手續締切
- 15日 外国人留学生入学試験（第2次）
- 16日 外国人留学生入学試験（第2次）合格発表
- 18日 一般入学試験（C日程）、  
センター利用入学試験（第2次）入学手續締切
- 19日 第10回卒業式 於 聖籠町町民会館  
卒業謝恩会 於 新潟グランドホテル（写真）
- 25日 外国人留学生入学試験（第2次）  
入学手續締切  
理事会
- 26日 センター利用入学試験（第3次）  
合格発表
- 31日 センター利用入学試験（第3次）  
入学手續締切  
学年終わり



### ～訃報～

去る2月、国際文化学科4年生（当時）の若山幹さんがお亡くなりになりました。  
お悔みを申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。



# KEIWA チャレンジ学生ファイル⑦



英語英米文学科 4年

岩佐 徹

『敬和ナイト』

～学生手づくりの音楽イベント～

今回で敬和ナイトは7回目を迎えた。敬和ナイトは、大好きな音楽を通じて友達との輪を広げ、学生生活をより楽しいものにするを目的としたイベントで、学生が自主的に企画・運営してきているものである。

全てがオリジナルのイベントであり、メンバーがそれぞれの役割を持って成功を目指した。私はHip Hop DJとして参加した。初めてターンテーブルを買ったのは16歳の時であり、それが今につながっている。参加者はすごく素直に自分を評価してくれる。本当によい曲ならずごく盛り上がるし、ダメな曲なら静まる。だからこそ、自分の選曲した曲で参加者が盛り上がると、鳥肌が立つほど感動する。音楽でみんなが一つになる瞬間は何ともいえない感動である。

本気になって何かに挑戦し、それを成し遂げることは決して容易なことではない。本気だからこそ緊張し、失敗を恐れ、それでも自分に勝って前に進む人には、誰かを感動させたり、勇気を与えたりする力がある。だからこそ、そんな人が輝いて見えるのではないだろうか。

頑張っていればきっと誰かが見ていてくれるし、認めてくれると私は信じている。多くの人が自分を認めてくれれば、自信をもってまた前に進むことができる。失敗を恐れることよりも、挑戦することが大切なのだ。問題はいろいろあったが、力を合わせて、あんなにすごいイベントができたのだ。このイベントでメンバーの一人ひとりが、大切な宝物を手にしたはずだ。

敬和学園大学

[www.keiwa-c.ac.jp](http://www.keiwa-c.ac.jp)